

# GTI経済協力フォーラム・第10回北東アジア教授連盟年次大会(NAPA2017)

ERINA 調査研究部主任研究員

中島朋義

9月21、22の両日、韓国江原道春川市及び東海市において、GTI 経済協力フォーラムと第10回北東アジア教授連盟年次大会(NAPA2017)が、韓国経済学会、江原道、韓国海洋研究院、北東アジア教授連盟の共催により合同開催された。

今回は「新たなグローバル化の時代においてGTI 地域の経済協力を高める」と

いうテーマのもとに、中国、ロシア、モンゴル、日本そしてホスト国の韓国の専門家から、経済協力、交通インフラ整備、環境問題、中国の一带一路構想の北東アジアへのインパクトなど、幅広い分野について報告が行われ、活発な議論がなされた。

興味深い報告としては、ロシアのFTA政策について複数の発表者から発表があった。ロシアを含む旧ソ連諸国による

関税同盟であるユーラシア経済共同体(EAEU)を交渉の主体として、ベトナム、韓国などの東アジア諸国とのFTA交渉が進められており、ロシア外交におけるアジア重視の具体的な表れと感じられた。

ERINA からは中島が報告者として参加し「北東アジアの経済的相互依存」をテーマに報告を行った。その内容としては北東アジアの経済的結びつきを、人的移動、貿易及び直接投資、交通インフラの接続性、地域内FTAの効果などの諸側面から明らかにし、今後の展望を示した。

なお、東海市においては9月にGTI EXPO2017という博覧会が開催されており、見学する機会を得た。会場ではGTI構想に関連する国・地域、ロシア、モンゴル、中国などの企業、地方政府などが多様な展示を行い、この地域のさらなる経済協力の可能性を、実態として示していた。吉林省のブースでは複数のパネルを用いて、GTI地域の開発構想と一带一路をはじめとする中国の政策との関連が展示されており、同地域に対する重視の姿勢が窺われた。

## 会場の様子



(出所) 主催者撮影

## GTI EXPO2017の外観



(出所) 筆者撮影

## GTI EXPO2017の様子



(出所) 筆者撮影